

くつろぎタイム

vol.218 2024.5

編集・発行：八頭町立図書館

郡家図書館 八頭町宮谷 256-4

船岡図書館 // 船岡 539-1

八東図書館 // 北山 48-1

読んで復興支援 ～能登半島が舞台になった本～



1月に起きた地震で、大きな被害を受けた石川県。春になり、少しずつ復興が進んでいます。「現地が落ち着いたら、一度訪問してみたい」という方へ向けて、能登半島が舞台になった本を紹介します。多くの人が本を読んでその地に思いを寄せることで、少しでも復興支援につながられたら……と思います。

『ゼロの焦点』

松本清張／著 新潮社

新婚直後に失踪した夫を探し、能登地方を一人で訪れた新妻。清張の代表的な推理小説の一つで、何度も映像化されています。夫が亡くなった場所が、能登金剛にある“ヤセの断崖”。「サスペンスドラマの最後は断崖のシーン」という定説は、この作品がきっかけだったと言われています。

『あさいち』 福音館書店

大石可久也／え 輪島朝市の人びと／かたり
輪島の朝市に集まる人々の様子を描いた絵本。売る人と買う人のやり取りが、いきいきとした方言でつづられています。1980年に出版された絵本ですが、このたび復刊されました。売上金は、震災復興の義援金にされるそうです。

『恋文の技術』

森見登美彦／著 ポプラ社

京都の大学から、能登半島にあるクラゲ研究施設に派遣された主人公。友人や家族へ送った手紙だけで構成された小説です。「ここには何もない！」と嘆きつつ和倉温泉に通い、のとじま水族館でイルカを愛でるなど、結構楽しんでいる様子が伺えます。

『ローマ法王に米を食べさせた男』

高野誠鮮／著 講談社

著者は、^{はくい}羽咋市役所職員(執筆当時)。住民の高齢化による地域の過疎を食い止めようと、驚くような企画を繰り返します。米のブランド化やUF0で町おこしなど、「金がないなら知恵を使え」という姿勢は「スーパー公務員」と話題になりました。

『ひとり旅日和』シリーズ 秋川滝美／著 KADOKAWA

内気な主人公が、日本全国をひとり旅することで成長していく姿を描く人気シリーズ。1巻では金沢で「ハントライスと海鮮丼」、5巻では能登で「刺身定食」を味わいます。おいしそう！

